

10月の果実の見通し

平成30年9月25日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	青森 長野 ほか	8,013	95%	8,426	275	やや高	273	1,417	17.7%	全国的に生育は前年と比べて早めの展開となっており、「つがる」は9月いっぱいほぼ終了。9月中旬からは各種中生種の出荷も始まり、荷動きは活発化してきた。消費地の気温も下がってきており、消費環境は良好。各県オリジナル品種に加えて10月月初より長野産「シナノスイート」や青森産「早生ふじ」の入荷も始まってバラエティに富んだ品揃えとなって売り場も拡大。食味は充実しており、前年と比べれば一回り小さめながらも販売しやすいサイズ展開で引き合いは堅調。りんご全体では10月は入荷減・価格高の展開を見込む。
西洋なし類	山形 ほか	640	105%	680	317	並	311	420	65.6%	前年は春先の低温で開花が遅くなって早生種の販売は9月下旬から多くなったが、本年は春先から天候が良く、開花も早く生育が順調に推移していることから、各品種共に例年より一旬ほど早い流れになっている。山形産「ラ・フランス」は生育が順調ではあるものの例年並みの収穫時期になり、販売開始は前年より早い10月中旬から。長野産の販売は10月初旬からとなる。台風被害は若干あるものの出荷量は前年並みと見る。
日本なし類	栃木 茨城 千葉 福島 ほか	3,932	85%	3,886	247	やや高	263	3	0.1%	本年は開花が早く、前倒し気味の出荷が続いていることで各県共に品種の切り替えが早い。関東産地の「豊水」「あきづき」は9月いっぱいほぼ終了となり、10月は「新高」「南水」「にっこり」など大玉の晩生種が販売の中心に。気温高にも助けられてこれまで順調な販売が続いてきたが、9月下旬以降気温の低下もあって若干販売は停滞気味。それでも月通じて価格低迷した前年より上回る見込み。
ぶどう類	長野 山梨 岡山 ほか	2,823	95%	2,739	1,016	やや高	871	169	6.0%	露地ぶどう全体に本年は生育が早く、10月の市場入荷量は前年より若干少なくなる。また、房も小ぶりなことから品種によってはコンテナ出荷が減少してパックの比率が多くなる産地もある。「シャインマスカット」は各県ともダラダラとした出荷ではあるが、前年より出回り量多い。黒系の「種なしピオーネ」等は中旬以降減少し、青森産「スチューベン」の販売が始まる。
かき類	和歌山 奈良 福岡 ほか	8,935	90%	9,038	226	やや高	237	198	2.2%	8月時点における主産県の柿生産面積は前年比99%で収穫量は前年比105%と平年に比べやや多い見込み。生育は前年に比べ5日早い、平年比ではやや早い程度で変わりない。着果量は平年比ではやや多く、肥大状況も概ね良好だが一部の産地に於いては小玉が多くなっている、生育が良いため全体の出荷流れは早く、「太秋」「早秋」の出荷も早まり10月中旬には「早生富有柿」の出荷が始まる産地もある。

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	宮崎 熊本 ほか	13,575	98%	14,284	203	やや高	199	-	-	9月より宮崎・熊本などの極早生種が入荷していたが、10月月初より長崎・愛媛産も始まることで30年産みかんシーズンが幕を開ける。今シーズン通しての生産計画量は前年を大きく上回るが、10月の極早生種はほぼ前年並となる予想。若干小玉傾向であるが、酸抜け良く内容も期待できる。現状では後半品種に関しても十分な数量が見込まれていることから、10月中は売り場作りを含めた販促が重要。滞留させることなくうまく商品を動かしていきながら、11月からの早生販売に弾みをつけたい。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)
 入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)